

試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 ハイテクプラザ

所 管 課 産業創出課

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	3-2- 新しい産業の育成	地域活性化共同研究開発事業	組込み応用製品の高機能化・高信頼性に関する研究	組込み応用製品の高機能化・高信頼性化を実現する開発プラットフォームにより、県内企業との組込み製品の高機能化、及びIT分野企業との組込み参入支援を図る。	ハイテクプラザではMPUボード、FPGAボードの基本設計を行うとともに、そのボード上で動作する基本ソフトウェアの開発、組込み用途で汎用的に使用できるFPGA用の回路リソース(IP)の開発を行う。共同研究企業では製品として業務用プリンタ、自動巻線機、監視システム、画像応用装置を開発する。	19	21	B	研究計画どおり初年度の目標はほぼ達成しており、次年度以降への取り組みにも問題がないと考えられる。	どのくらい必要とされているのか、雇用創出まで見込まれるほどの効果があるのか明確にする必要がありますが、県内企業に限らず需要拡大が望まれる。
2	4-1- 環境と調和した事業活動の展開	ニーズ対応型研究開発事業	難分解性有機質を分解する酵素の開発	発酵分解処理装置により、代表的な難分解性有機質であるコラーゲンを高速で分解するため、高機能性コラーゲン分解酵素を開発する。	本研究で開発した酵素は、実際に運転されている発酵分解処理装置に添加し、コラーゲン分解能力の向上を確かめる。処理装置を含めた処理システムの開発とコラーゲン分解菌の大量培養及び酵素製剤の開発は、県内企業と共同で行う。	19	21	A	コラーゲン分解酵素の生産菌を発見できたので、次年度は発酵分解試験など実用化に向けた取り組みが必要である。	有機性廃棄物の処理が社会問題となっている中で、難分解性有機質（コラーゲン）の分解のための酵素の開発に取組み、コラーゲン分解活性の高い微生物が見出されている。本知見を基盤に公募型新事業創出プロジェクトへの提案も計画されており、今後の実用化への取組みが期待される。
3	3-3- 地域資源を生かした産業の振興	ニーズ対応型研究開発事業	フェノール系有機資源の物質選択剤を利用した高機能エコー製品の開発	柿渋などを代表とする地域資源（天然多価フェノール）を活用した素材で、環境に優しく高機能性を有する工業製品を開発する。	柿渋、漆、タンニンなどを代表とする地域資源を活用し、その重金属、タンパク、アルカロイド、アルデヒドなどとの反応性を利用した機能性材料および金属表面の化学修飾試薬などクリーンな工業製品を開発する。	19	21	C	開発するエコー製品の技術移転先を明確にして、研究の方向を修正する必要がある。	柿渋などの地域資源（天然多価フェノール）を活用した素材開発を目的に、柿渋を内包したゲルを製し、そのゲルの重金属吸着能が確認されている。ただ、吸着効率等の改善すべき課題や、技術移転先の明確化も重要と感じられ、これらに関する対策が必要である。

試験研究（中間）評価整理表